C.L.ドジスン（ルイス・キャロル）の手紙（5）

平　倫子

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1877年12月20日

拝啓　マクミラン様

わたしの主旨をご理解いただけなかったようですが、はっきり申し上げなかったこちらの不備というべきでしょう。わたしが見本［病院用の『アリス』］をみてそれでよいと判断するまで、製本に関してはっきり決まっていることは何もないのですから、わたしの考えをぬきにしてそれを進めるべきではありません。

本が出まわる時期がクリスマスになるか、イースターになるか、いつになるかということはさほど大きな問題ではありません。わたしが問題にしているのは、本そのものが真に寄付する価値があるかどうか、ということだけです。経費はすべてわたしのポケットマネーから出るわけですから、壊れやすい本を寄付するためにお金を費やしたくはありません。

22日の土曜日にはギルフォードの「チェスナッツ邸」に行く予定ですので、見本はあちらに送っていただけませんか。すでに製本したものが何部あるのかもついでに教えてください。

もし製本済みのものが取り扱いに耐えないほど綴じがあまく（そして部数もそれほど多くないのでしたら）、子どもの人数が少ない病院に寄付することも考えられます。しかし、必要ならばすでに出来たものは乱丁扱いにして、製本し直すのがよいと思います。その分の費用は出すつもりです。

製本担当者が目下ほかの仕事で忙しいようでしたら、待つことはいといません。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1877年12月27日

拝啓　マクミラン様

（12月18 日付けの手紙で）わたしがお聞きしたかった演劇化のための版権について、法律にかなう意見を手に入れました。わたしにはまったく不利なことに、誰でも作品を脚本化してよく、もし作者がそれをする場合でも台本を登録しなければならないのだそうです。つまり作品を保証するのではなく、台本が複写されないことを保証するにすぎません。というわけで、エリストン・ファミリー一座［喜歌劇「妖精の国のアリス」を公演した］に口出しは出来ません。あなたは先方へのお手紙にどのようにお書きになったのですか？彼等の台本の写しがある

のでしたら、見てみたい気持はいまも変わりません。

わたしのためにご親切に労を取って下さったジョージ［マクミラン社の社主アレグザンダー・マクミランの次男。1874年から同社に勤務］にわたしからのお礼をお伝えください。

「マンスリー・パケット」誌のクリスマス特集号で、貴社の二冊の『アリス』の広告をみましたが、現在出ているものが「何刷目の」1000部なのかがわかりませんでした。ほかにも省かれた広告がないかどうか調べていただけませんか？よく売れているとわかればそれがよい広告になると思いますので、それも大衆の目に触れるようにすべきです。
本当にそう思います。

敬具
C. L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1878年3月4日

拝啓　マクミラン様

以下のような場合、どう対処すればよいか教えていただけませんか？

よい職があるからと薦められてイギリスに移住した妻子あるドイツ人の教師です。しかし実際は中流階級の学校の教師の職で、年20ポンド、生徒が3人で、一教科につき2シリング6ペンス程度だそうです。そのため彼は生活に困っていますが、慈善事業にはたよらず出来るだけ働いて収入を得たいと考えています。彼はドイツ語の本70冊の翻訳原稿を持っており、それを出版社に売りたい意向のようです（彼は、一件につき一ポンドの値打ちがあると見込んでいます)。そのいくつかをあなたに見ていただくためにお送りするのは無駄でしょうか？それとも照会しがいのある別の出版社を教えていただけますか？彼はよい教育を受けた立派な人物だと思いますので、困難をいくらかでも軽減する手助けをしたいと思いますが、何をどう始めたらよいかわかりません。

敬具
C. L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1878年4月11日

拝啓　クレイク様［マクミラン社のジョージ・リリー・クレイク］

わたしがほかの色インクの使用をほのめかしたために、なんという困った事態をまねいてしまったのでしょう！あれは単なるほのめかしで、注文ではなかったのです。どうかもう一度お考えくださり、撤回していただきたいのです。そしてあなたのお考えのとうりになさってみて下さい。

アーノルドの詩集の活字［1877年刊のマシュー・アーノルドの『全詩集』］は魅力的です。『ファンタズマゴリア』のページの仕様もあのようにしたいと思います。それで、挿し絵画家たちに送るためあの活字のものを2、3枚送っていただけないでしょうか。

独立した『スナーク狩り』をやめて、『ファンタズマゴリア』と合わせる、というアイディア（もちろん活字は組み直して）はいかがでしょう？『ファンタズマゴリア』の滑稽詩の部分がより立派になるはずです。『スナーク』の在庫分を売り尽くすのにどのくらいかかるでしょう？

敬具

C．L．ドジスン

13日にはギルフォードの「チェスナッツ邸」に出かけます。

追伸：　ケーガン・ポール社は「『イン・メモリアム』のための索引」[ドジスンが制作し1862年エドワード・モクスン社から無記名で出版した12ページの小冊子] の依頼を丁重に断ってきました。1861年から1871年までは約1000部売れたのですが、それ以後はさほど売れていないからかと思われます。しかし、あれが店頭から消えてしまうと人々から「なぜ」と疑問がでるでしょう。そこであなたにお願いがあります。[現在の版元の] ウォード・ロック社から、シートのままを100部とクロス製のもの50部を取り寄せていただき、クロス製20部をわたし宛てに送っていただきたいのです（イースターの火曜日までは留守にしていますので、それ以後に)。残部はそちらで売っていただくため置いておいて下さい。それから、次回『アリス』の巻末にわたしの本のリストを印刷するときは、この「索引」も入れていただきたいのです。みんなに知ってもらうのに役に立つでしょう。多少の宣伝は必要だと思います。利益分をオーバーするような宣伝費はかけられませんが、数ポンドですむなら売る価値はあるものだと思いますから。また、もし正当な要求があれば、増刷することも考えています。宣伝にいくらかはかかるでしょうが、その結果で様子が判断できますから。

チェスナッツ邸、ギルフォード、

（ただし火曜日まで、その後はオックスフォード）

1878年4月20日

拝啓　クレイク様

新しい活字で組んだ『ファンタズマゴリア』の見本、ありがとうございました。さらに2、3枚いただけませんか？（前にもお願いしまして一部はすでにあります)。

赤と黒で印刷した『アリス』のページは、オックスフォードに送っていただいたものと大変似ています。来週これを持ってゆき比べてみます。赤を使ったものは目に快いと思いますがいかがですか？（これは消極的な意見ですから、がっかりなさらないでしょう！積極的な意見は、おそるおそる申し上げるのですが、いままで金色の効果を考えたことはありましたか？）

『スナーク』についてのあなたの「分離という手段」（グラッドストーンならこう言うでしょう）は、もっともなお考えですから受け入れますが、「索引」を残本として安く売る、というお考えには賛成できません。わたしはそれを売りたいばかりかもっと増刷したいのです。まだ売れているのですから、どうしてもう1000部売ってはいけないのかわかりません。とにかくそれを『アリス』の巻末のわたしの作品リストに付け加えていただきたいのです。モクソン社のリストには値段が、クロス製2シリング、『イン・メモリアム』に綴じ込み用は1シリング6ペンス、とあるのを見つけました。数カ月間マクミラン社のリストに載せて宣伝するとなると経費はどのくらいかかるでしょう。あるいは2ポンドをかけてもっとも有効に宣伝する方法は何でしょう？

病院からの手紙がきているはずですが、オックスフォードのわたし宛てに送ってくださいませんか？

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1878年6月30日

拝啓　マクミラン様

貴社の「アート・ハンドブック」(『家庭の装飾』などのシリーズ）に「読書と対話の技術」という一冊を加えるのはいかがでしょう？じつはわたしの友人にその方面の専門家がいるのですが、そういう本を試してみたいと言っております。読みやすくいきいきした文章を書く能力のある人物です。

ところで、貴社の『簡略人名辞典』には、生年月日が欠落していて使いにくいのです。没年というのもやはり関心のある事実であり、出来事の起こった年が生涯のどの時期にあたっていたかを知るためにも必要事項かと思います。

偉大なライバル同志のボナパルトとウエリントンはどちらが先に生まれたのか、あの辞典では解明出来ません。

敬具
C．L．ドジスン

『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』をそれぞれ12冊づつ、「金文字いりの革製」で製本してくださるようお願いします。ただし発送はまだなさらないで下さい。

ラッシントン通り7番地、イーストボーン
[1877年以降、夏の休暇をここですごした]
1878年8月30日

拝啓　マクミラン様

わたしは『鏡の国のアリス』の42刷1000部のなかに重大な欠陥があるのを見つけました。チェスの図版から王様が二つとも消えているのです。10刷目の1000部でそれについて触れたときは正しい位置にありました。何刷目の1000部から印刷ミスが始まったか、わたしには見つけるすべがありません。

第一にすべきことは（これは直ちにやっていただきたいのです)、正しく印刷したしおりを作り、手元にあるすべての『鏡の国のアリス』に差し込むことです。

そのしおり用の原稿を同封します。

第二にすべきことは、どの1000部から落丁が始まったか、突き止めることです。もしも現在出回っているものの多くにミスがあるのでしたら、正誤表を広告で出すべきです。しかしこの点については、あなたのお考えを伺ってから決めるつもりです。

以前、グレーと黒の表紙の『スナーク狩り』の在庫がさばけたら、その表紙はやめて、まるく囲んだ絵を入れた赤い表紙にしたいとお伝えしたことを、お忘れでないといいのですが。

敬具
C．L．ドジスン

ラッシントン通り7番地、イーストボーン
1878年9月26日

拝啓　マクミラン様

大変満足できる年間予算案を送って下さいましてありがとうございました。劇場のチケットを取っていただく用事をおたのみして、うんざりなさらなければよいがと思っておりますが、あなたはその便宜をはかってくださる唯一の友人なのです。10月5日、土曜日のオリンピック劇場の特別席（二、三、四列目の中央に近い席）のチケットを二枚取っておいていただきたいのです。ところで（わたしのためにいつも親切に）チケットを確保してくれるお店の使用人などに、おつかいの心付けが必要ならば、半クラウンかあるいはあなたが適当とお考えの額を、わたしに代わって渡しておいていただきたいのです。

チェスの図版の印刷ミスは、こちらの二人の子ども達に、本当に王手になるかを証明していたときに見つけました。そこを最新の本でためしてみましたが、あえてどうしても出来ないという必要はないようです。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1878年10月19日

拝啓　マクミラン様

J．マウント氏［音楽家で『鏡の国のアリス』の「せいうちと大工」の作曲の許可をもとめていた］についてのあなたの御子息からのお手紙に感謝します。許可申請は今後も繰り返されるでしょう。

まもなくユークリッドについての本のページ組みにしたものが出来る予定です。ゲラ刷りはほとんど出来ています。1ページは何行にすべきでしょうか、また、紙のサイズはどれくらいでしょうか？分量はバークスの『近代の物理宿命論と進化の理論』［Thomas Rawson Birks, *Modern Physical Fatalism and the Doctorine of Evolution,* 1872］くらいですので、この本もあの大きさがいいと思います。そうしますと、1ページは31行から30行になりますが、わたしはマージンをもうすこし取りたいので、30行が適当だと思います。ページの上に欄外見出しも入れるつもりです。

ほかにも製本の問題があります。もし異存がなければ、（わたしの好きな）赤のクロス製で、背のタイトルはすっきりした金にして、天地は切りそろえて赤のパラ掛けにしてはどうかと考えています。読者が自分でページをカットするのは、不揃いになり、あちこちのページを参照するのに不便になるので、そうしたくありません。12月までには出版したいと思います。いまそれを言うのは早すぎますか？早すぎなければ、ベル・メル社の編集者に予告を出すよう頼みたいと思います。彼はこのまえわたしの本を出した時に親切にやってくれました。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1878年10月31日

拝啓　マクミラン様

1869年版以後のウイルソンの『幾何学』は、[1368年の初版と比較して] 内容に変更箇所がありますか？もし新版がなければ、1869年版でも差し支えないのですが、一部送っていただけませんか？

『ユークリッドとその好敵手』の印刷を何部にするか、とのことですが、「250部を印刷して、活字は二、三カ月組んだままにしておいていただきたい」とお返事いたします。売れることは期待していませんので、最終的には赤字覚悟です。そこで、生産コストによってではなく、その種の本の平均的な価格によってあなたに値段を決めていただかなければなりません。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1878年11月３日

拝啓　マクミラン様

今度の本は、私算では同封した14シート、すなわち224ページになる見込みです。本の巻末に書き込みが出来るように１シートぶんの白紙を入れることを考えています。ですから240ページと見込んで下されればよいと思います。そこに「投ずる」（あなたのことばで言いますと）紙の量はあなたがよくご存知のはずですからおまかせします。まるで、新聞工場が使う用紙みたいで、「ニューカッスルに石炭を搬入する」というようなニュアンスですね。

どうぞウィルソンの新版のシートを何枚か送ってください。製本したものは二部持っていますが、そのまま印刷所にまわそうと思っております。そうすれば製本の手間、暇が省けます。

[J．E．ミレイの]「長靴をはいた猫」はとても美しい絵ですが、わたしは年刊雑誌には書けません。近頃はそういう依頼には冷淡なのです。たくさんきますから。彼等のねらいは名前だけなのです。今度またそういう話をもちこんできた編集者に、わたしが書いて署名をいれないものと、彼等が街で出会ったゆきずりの人に書かせたものに「ルイス・キャロル」と署名をつけたものとで、どちらにたくさんお金を払うのかお聞きになってみてください！今回も名前がいくばくかのお金の価値があることは疑う余地もありませんが（さらにその結果、わたしに出版社を選ぶ幸運をもたらすことにもつながるのでしょうが！）、定期刊行物に埋草を書いてお金を得たいとは思わないのです。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1878年11月10日？[日付なし]

拝啓　マクミラン様

ウイルソン氏の新版を送っていただきありがとうございました。旧版とはずいぶん様変わりしているのですね。わたしが いま準備中の本で扱ったところを再検討する必要がありそうです。となるとまた遅れそうですが、クリスマスまでには出版したいと考えています。

ところであなたが1872年に送って下さった詩はこうでした。

「はじめに魚を釣り上げる、
もう逃げられない、滑稽な魚だから。
つぎに買われたその魚、うれしいことに
いつも１ペニーでまにあった。」

[この詩については巻末付記を参照のこと]

これをおたずねした理由は、あなたに送っていただいたとき詩の韻律がそろっていなかったので、すこし修正して送り返したからです。わたしが見た（「ファン」紙［10月30日号の同紙のこと。９日、16日、23日、30日とシリーズで『数字の国のアリス』というパロディー集を載せていた］にあった『アリス』のパロディーの）詩は、オリジナルのほうではなく、修正したほうの詩でした。それであなたはそれを書いた人（誰かはわかりませんが）に、修正したほうをお見せになり、彼はそれを最近の記事に取り入れたのだと思います。そうに違いありません。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1879年１月30日

拝啓　マクミラン様

『ユークリッドと現代の好敵手』を２月中に出版できるよう望んでいます。製本の状況を調べていただけませんか？試験的に束見本（ダミー）をつくるのがよいと思います。シートを一枚同封（返送は不要）しますが、そちらで16シート分を準備して下されば大丈夫です。

巻末に白紙をつけ加えるのはやめることにします。製本は廉価版『アリス』のような赤のクロス製で、背に飾らない金文字でタイトルをいれ、天地は切りそろえて白いまま、というのがわたしの考えです。

先日あるご婦人が、廉価版『アリス』（病気の子どものために作った本に間違いないと彼女は確信しています）が売られていたと話してくれました。あれは間違いなく全部私のところに送って下さったはずですね？

敬具
C．L．ドジスン

追伸：　ニューヨークのルイス・H・モーガンが書いた本で、ビーヴァーの写真やダムや巣のことが写真や絵で照会されているものを、おたくのアメリカ関係の情報からさがしていただけないでしょうか？

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1879年２月27日

拝啓　マクミラン様

『ユークリッドと現代の好敵手』の値段をどうするか、まだ考慮中とのことですが、そのことで直接あなたからご意見を伺ったことはありませんので、敢えてひとこと気付いたことを申

し上げます。この種の本は従来そうであるように、高めの価格をつけても大丈夫だと思います。買い手は本が欲しいから買うわけで、思ったより1シリング高いから買わないなどという型にはまった買い方はしないでしょう。印刷に経費のかさむ「図表」が多いことでもありますし、あのサイズの本としては最高の値段をおつけになってもよろしいと考えます。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1879年4月7日

拝啓　マクミラン様

定期刊行物のリストを送っていただきありがとうございました。わたしの本の書評が載っているものがあれば、いままでのように送っていただきたいのですが、『アリス』のときのように、スレスレに切り落としてしまうのではなく、（わたしがあとで切りそろえますので）十分マージンをつけるよう切り取る人にお伝え下さい。以前そのことをお願いしたとき、係りの人が「まわりの記事を切らずにマージンを確保することは出来ない」といった、というのを思い出しました。ごもっともですが、納得出来る理由ではありません。

［『ユークリッド』は］どのくらい売れましたか？250部以上売れる見込みはありそうに思われますか？

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1879年5月9日

拝啓　マクミラン様

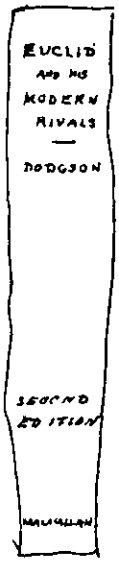
『ユークリッド』の書評記事にかんしてですが、腕利きの人があたって下さっていますか？こう申すのも、送っていただいたものには含まれていない二つの書評を偶然知ったからです。ひとつは4月12日号の「ヴァニティー・フェア」誌で、手に入れましたので送っていただかなくて結構です。もうひとつは、一週間ほど前の「イングリッシュ・メカニック」誌です。こちらは持っていませんので手に入れたいと思っています。

ベッドフォード・ストリートの「レセプション」の日時をお知らせいただき有り難うございました。しかし（人生にはなんと「しかし」が多いことでしょう！）、いまはあのような集まりにお忍びで出席することは不可能だと思います。本名と別名の関係を知っている方々が多いのは仕方ありませんが、わたしの「顔」と「ルイス・キャロル」を結びつける人が少ないほうがわたしは幸せです。このようなわけですのでわたしの欠席をお許し下さい。

敬具

C・L・ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1879年5月16日



拝啓　マクミラン様

初版『ユークリッドと現代の好敵手』250部が売れたというニュースは、期待していなかっただけに嬉しいことです。再版の機会を利用してこれまでにわたしによせられた批評や助言を生かして、多少書き換えたいのですが、250部の増刷は出来るだけ早いほうが望ましいでしょう。表紙はすぐにでもとりかかれますが、ある点で初版との違いを明確にするため、表紙に「第二版」と印刷していただきたいのです。わたしは下のあいているところに、イタリックの大文字がいいと思いますが、あなたのご判断をあおぎ、それに従うつもりです。

同封したものは、ご家族のみなさまにも関心をもっていただけるのではないかと思います。こうしてわたしが印刷してみて、あなたに出版していただこうと考えているもののねらいは、よく使われる言葉の「用語解説」です。まもなくシートとタイトル・ページをお送りするつもりですので、ご判断をお願いいたします［これは、のちに『ダブレッツ』となるもの］。こちらの大学出版局ではこのようなタイトル・ページの印刷は無理です。貴社の芸術的な技術がぜひとも必要になりますので、よろしくおはからいください。

敬具
C．L．ドジスン

「イングリッシュ・メカニック」誌と「サタデー・レヴュー」紙ありがとうございました。

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1879年5月30日

拝啓　マクミラン様

この本はクロスで製本するにはあまりに小さいと思います。そこで、紙製で2シリングは明らかに高すぎるようでしたら、あるいはその間の値段はつけられないというのでしたら、1シリング6ペンスにしてはどうかと考えています。1シリング9ペンスあるいは1シリング8ペンスではどうしていけないのでしょう？　たしかに「定価、5グロート」［20ペンスの古い数え方］と書き入れるのはあまりに奇抜になると思いますが、1シリング6ペンスでは（そこから1シリングをわたしに振り込んで下さるとすると）、生産コストをまかなうこともできなくなるのではありませんか。

敬具
C．L．ドジスン

パーカーズ社で『ユークリッド』が13部売れ残っていると聞きました。おそらく彼等は喜んで貴社に返してくれるでしょう。それとわたしが送った11部とで、目下の需要には十分です。現実に需要があるのでないかぎり、第二版の問題や値段についてゆっくり取り組みたいと思います。

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1879年6月6日

拝啓　ジョージ・マクミラン様

わたしのためにチケットを確保していただきありがとうございました。わたしは、最初から土曜日のつもりでした。わたしの暦の見間違いでご迷惑をおかけしたことをお許し下さい。

大学出版局は、マクミラン社が『ダブレッツ』という本の広告を出したと教えてくれましたので、校正刷りをこのままそちらに一枚送ります。全体はほかにもう8枚あります。以前、お父上に一枚お送りしましたものを返していただきました（その必要はなかったのですが)。しかしそれをお返しするつもりはありません。

お父上の助言にしたがい、表紙は色つきの紙製にしようと考えています。お父上が1シリング9ペンスか1シリング6ペンス、あるいはわたしがいま考えている「定価、5グローツ」という値段を承知して下さるといいのですが。

敬具
C．L．ドジスン

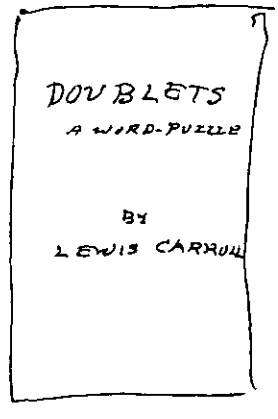
クライスト・チャーチ、オックスフォード
1879年6月10日

拝啓　マクミラン様

損をして売ること（そんな余裕がないということは別にしても、まったく理屈にあわないと思っていますが）を避けるための唯一の方法は、あなたが以前教えて下さった「柔らかなクロス製」にして、2シリングの小冊子にすること以外にないように思われます。もしあんなに小さい本があれほど高いとわかっていたら、もっと大きな本にしたでしょう。しかし、災いはもう起きてしまいました。

表紙は明るい赤で、金の飾り文字で題名を入れたいと思います。見本は作っていただけましたか？

印刷所は用紙を送って欲しいそうです。インクの吸収もよく、読者がことばを書き込むのにも便利なように、良質でうすい色のついた用紙がいいと考えています。500部分の用紙を送って下さるようお願いします。



敬具
C．L．ドジスン

40ページ、つまり20葉になる予定です。[全紙のまま]2シートか、それともあとは綴じるだけでよいように 折りそろえてお送りしますか？

チェスナッツ邸、ギルフォード
1879年6月22日

拝啓　マクミラン様

いまのところ、（40ページの）小冊子を、折って（綴じるだけにして）お送りするか、全紙大の2シートのままがいいか、お返事をお待ちして足踏み状態です。どうぞお決めになって、至急お知らせ下さい。赤のクロス製にすることや2シリングという値段に賛成していただけたのかどうかもわからないままです。詳細についてのお返事をお待ちしています。目下の大きな目標は、250部を印刷することですから。わたしは「ヴァニティー・フェア」誌の編集者に今月の終わりまでには出来ると伝えてあります。時間はあまりありません。

「ヴァニティー・フェア」誌が書店と同じ時期にその本を入手できるよう取りはからっていただけませんでしょうか。

敬具
C．L．ドジスン

「ベイン夫人気付け、ゴードン・プレイス、30、
カムデン・グローヴ、ケンジントン」
1879年6月26日

拝啓　マクミラン様

ありがとうございました。表紙のデザインとても気に入りました。
多少線の付きすぎを感じますが、それはあなたと製本者で判断していただくのがよいと思います。赤（明るい赤）と金でダミーを作ってみていただきたいのです。黒と金を試す必要はありません。というのも本質的に楽しい感じにすべきだと思いますから。

書店に納入する時期に「ヴァニティー・フェア」誌の編集者にも納入することに関しては、もしそれが普通ではないことで（あなたのお手紙から判断して）、異存がおありでしたら、どうぞおやめになって下さい。おそらく結局のところいちばん簡単なのは、わたし宛てに配達するように、「タヴィストック通り13番地、『ヴァニティー・フェア』誌編集者気付け、ルイス・キャロル殿」とすることです。

出来上がったら、何部送っていただくかお伝えします。わたしはとりあえず250部製本することを希望します。さらに250部が必要になってもそれほどの損にはならないでしょう。

月曜日までは上記のところにおりますが、そのあとはまたギルフォードに参ります。

敬具
C．L．ドジスン

チェスナッツ邸、ギルフォード
1879年7月3日

拝啓　マクミラン様

赤い表紙はとてもいい具合です。しかし製本者はしっかりこちらの指示に従って下さらなければ困ります！わたしは「使用する紙と同じ白紙を入れる」と言いました。『ダブレッツ』のことばや答えを書き込むために利用するつもりでした。言われたとうりにするかわりに製本者は、ある宗教書から取った言葉をそこに入れてしまいました！もちろんすぐ取り除きましたが。

目次と表紙のタイトルのつりあいがばらばらで、表紙のほうはひどいものです。

表紙を返送します。もしわたしがお願いしたようになかに白紙をいれて使えるようでしたらお使い下さい。別なダミーのために新しい表紙を使う必要はありません。

それから『ユークリッドと現代の好敵手』についてその後の需要はありませんか？もし第二版の印刷をしなくてすめば、わたしは経費を節約できます。ところで、その本の広告は出ていますか？出ているとしたら、どこですか？一般規則にしたがえば広告を出す、出さないはすべてあなたのご判断によるのですから、口出しすべきではありませんが、敢えてひとこと言わせていただけば、貴社の本のリストに出ているかと思ってみましたが出ていないのです。友人もその本のことを何も知りませんでした。「アシーニアム」誌や「スペクテイター」紙などへの広告はきちんと定期的に出してしかるべきです。また、貴社の教育や科学の関連の本のリストにも含まれるべきものと思います。どこにも出ていないとなると一般の人々は知るすべがありません。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1879年7月12日

拝啓　マクミラン様

同封した「珍本」の広告は面白いと思います。これほど珍しいことを保証されれば、きっと買い手が殺到するでしょう！

『ユークリッド』をこれ以上広告しないとのご意見に賛成します。

まもなく『ダブレッツ』250部がそちらに届きます。いい出来だと思います。わたし宛てに50部、タヴィストック通り13番地の「ヴァニティー」誌に100部、そして100部は売るために確保しておいていただきます。

その広告についてのご判断もよろしくお願いいたします。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1880年11月25日

拝啓　ジョージ・マクミラン様

テーブルクロスに「狂ったお茶会」を複写する許可をたずねてこられた「ソールズベリー・スクエア、ウォーウィック・ハウス」のグレアム嬢に、どうぞ許可を与えて下さい。

わたしがかつて教えたアクランド・トゥロイト氏が、小さな本を出版したいのでお父上にお願いしたい旨の相談を受けてきたところです。彼は、出版社は魔術をつかって大金を消し、その犠牲者に二度と利益を戻さない、という神経質な恐怖をいだいています（これは物書きにとって決してめずらしいことではありませんが)。わたしはほかの出版社がどうかは知りませんが、あなたのお父上のところなら大丈夫、と彼に保証しておきました。とてもよく売れるという種類のものではないので、「リスクは大きく、もうけは小さい」という普通の条件で出版していただけるならお願いしたい、と言っていました。

金の小口の「グローブ版」の本についてのお知らせありがとうございました。もし、シェイクスピアとポウプがあれば手に入れたいです。手元に「グローブ版」リストがありません。金の小口のものにマークをつけて、リストを送っていただけませんか？

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1881年1月25日

拝啓　マクミラン様

『ファンタズマゴリア』の挿し絵入り版のことですが（もちろん出版して下さると思っています）、ダルジェル兄弟商会はすでに1ダースかそれ以上の彫りを終えている様子で、電気製版しようかと提案してきました。間違いはないと思います。そうしていただくようわたしから伝えましょうか、それとも、木版をあなたのところ（か、クレイに）送ってもらって電気製版し、保管していただくようにしますか？

フロスト氏［『詩？理性？』の挿し絵画家のアーサー・フロスト］はご病気だったそうで遅れるようですが、ほかの絵にかかったとのことで、なんとか来年中には仕上げたいと思っています。旧版の表紙のデザインを使ってもよかったかもしれません。時間的に間に合うよう望んでいます。

敬具
C．L．ドジスン

先日「運命の杯」［テニスンの新作戯曲］みてきました。魅了させられました。

ラッシントン通り7番地、イーストボーン
1881年8月17日

拝啓　マクミラン様

探していた「パール版」バイロンを送って下さりありがとうございました。「その本は出版されていません」と書かれたその取次店の手紙といっしょに、ここの本屋に見せましたら、とても驚いていました。取次店の精神状態を知るにはなにかを問い合わせてみるに限る、といえます。彼等の驚きようったらありませんでした。

あなたが「ドン・ジュアン」を入れない「グローブ版」バイロンを出版しても、マレイ氏［パール版『バイロン全詩集』を出版］に気をお遣いになる必要はないと思います。「パール版」を持っていない人や、『ドン・ジュアン』を家に持ち込みたくない読者は、きっとそちらを買うでしょうから。大部な『ドン・ジュアン』を省けば、「グローブ版」シェイクスピアとおなじ型のままで、活字を大きくすることが出来るでしょう。そのころまでには版権も消滅しているに違いありません。

テニエル氏は『アリス』の姿をいくぶん変えるお考えのようです［この年2月以来、ドジスンは幼い子どものための『アリス』の構想をもっていた］。そこで、アリスがでてくる二枚の絵の作業をストップするようあなたに電報を打ちましたがそれにつけ加えて言っておきたいことは、――さらに連絡がゆくまでは、どうぞ、口絵と63ページの絵だけ仕事をすすめるよう彼

等にお伝え下さい。

また、色つきの口絵については、入念な注意を払うようお伝え下さい。挿し絵画家自身による色づけの珍しい見本になりますので、本のもとのところにしっかり固定させたいと思います。

それからテニエル氏が変更する部分にしるしをつけ、絵を一つずつ切り放してゆけるよう、シートのままの『アリス』を彼に送っていただきたいのです。こんな目的のために製本済みのものを駄目にするにしのびませんので。

敬具

C. L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1883年5月13日

拝啓　マクミラン様

わたしの本『ユークリッド』第1部、第2部の第二版についての、「グラスゴー・ヘラルド」紙と「エデュケーショナル・タイムズ」誌の二つの書評をお送りいただきありがとうございました。

おたずねしたい質問がいくつかあります。

（1）次の詩集［『詩？理性？』のこと］の組たては、1シートを16ページ組みにするか、8ページ組みにするかどちらがいいでしょう？『不思議の国のアリス』は8ページ組みでしたが、『鏡の国のアリス』は16ページ組みでした。後者は、綴じの工程が半分のはずですから製本のコストもより安かったと思います。8ページ組みにすると有利な点はありますか？（わたしはしょっちゅう本文に手を入れますので、本文は電気製版ではなく、訂正された活字組み版から印刷されたはずですが、絵は電気製版されていたと思います）。

（2）表紙は――『アリス』のときのように――両側に円形浮き彫りを入れようと考えています。『スナーク狩り』の最新版にあなたが入れて下さった二つの（真鍮いろの）カットを使ってはいかがでしょう？そこから一つと、もう一つは『ファンタズマゴリア』から取るべきだと思っています。

（3）用紙は廉価版『アリス』よりも安いものを使いたいと思います。
クレイク氏は82年6月12日の手紙で、この用紙は「ディキンスンの高価な紙の一つ」で、もっと安い紙を使うことができるが、その場合「普通の人が見ても違いがわからないもの」にするとよい、と教えてくれました。どのくらい安い紙をお考えですか？「『アリス』と全く同じ様式」の本の出版を、用紙代は半分よりも安くおさえて引き受ける、と見積もったチズウイック・プレスやヘーゼル・ワトスン・ヴァイニー氏商会のことを念頭に置いて、82年6月9日の手紙でわたしの考えを申し上げたのでしたが、あなたが三分の二の価格に出来ると言われたので、それを試す価値があると思っています。『アリス』の絵も入れた何ページ分かを、その値段の紙（もしその外観が安っぽいようならもう少し高めの紙）に試し刷りしたものを見せていただけませんか？そうすれば高い紙の『アリス』とそれを比べて判断できますから。

（4）私の友人で「セント・ジェームズ・ガゼット」誌の編集者でもある人に、その本が「印刷中」であることを予告してもらいたいと考えています。本が出るどのくらい前に予告を出すのがいいでしょう。

（5）『アリス』のような金の小口と、一色でマーブル模様も入れないものとでは、コストにどのくらいの差がありますか？

（6）わたしは、2回目の1000部にはタイトルページに「第二刷1000部」というふうに、三回目以後もおなじようにしていただきたいと思います。『アリス』はそうなっていますか？つまりそれぞれの一千冊の違いが見分けられますか？それともおなじ時のものはタイトルページにみなおなじに3000部と印刷するのでしょうか？

（7）『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』は現在何刷目の1000部ですか？新しい本の出版のためにわたしが考えた取り決めの大要をまもなくお送りします。そのおもな眼目は、かねがね法外な利益を取っているとわたしには思える書店の利益を削減することにありますが、しかし、あなたとわたしにとっては楽になるはずです。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1883年5月20日

拝啓　マクミラン様

たいへん申し訳ありませんが、29日のドルーリー・レーン劇場の午後の出し物の一等席のよいところを二席確保していただけませんでしょうか。一席1ギニーだと思いますが、料金は俳優共済基金に寄付されます。三列目か、二列目か、四列目のほぼ中央の席を好んでいます。

今度の詩集の製本のためにわたしがぜひ試してみたいと思っているアイディアがあります。表紙は輝きのある明るいグリーン（春にわたしたちが目にする萌え出たばかりの生垣の色のような）で、本の小口はマーブル模様のクリーム色がかった白とピンク（淡いグリーンの葉むらを背景にリンゴの花がかもし出す効果のような）です。この色合いのマーブル模様の紙と、違った色調のグリーンのクロスをさがしてともに送っていただけませんか？友人の画家に見せたいのです。

13日付けのわたしの手紙へのお返事がいただけることを期待しつつ。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1883年6月4日

拝啓　マクミラン様

わたしの新しい本の出版についてわたしのアイディアをお知らせします。あなたのお考えをうかがえると嬉しいのですが。

第一にタイトルは、「詩？理性？」，　RHYME?

AND REASON?　です。これは人目をひくと思います。こういうタイトルがすでに使われているかどうかご存じですか？

次に出版の値段です。全体は210ページあり、挿し絵が70もあります！出版の値段は7シリング6ペンスか、8シリングがいいところかと思います。あなたがお決めになる値段は気になりませんが、商売のための値段には関心があります。なぜならそれがわたしの利益になるので

すから。わたしは取引値は6シリングにしていただきたいと思います。(ここでは貸し方[credit price]のことを言っています。つまり一年以内にわたしに払ってもらえる貸し方です。現金で支払われる金額についてはのちほどお話します)。この割引は25パーセントや24パーセントで売るような通常の割引のすべてを含むものですので、これ以上の割引はなさらないようここではっきりお願いしておきます。

あなたとわたしの取引も、このようなものでありたいと考えております。紙代、印刷代、製本代はわたしの勘定の借り方(debit)に記入して下さればよいのです(広告代はのちほど早めに申すつもりです)。この点についてはあなたがこれまでのような利益を取っていただきたいと思いますので、実際に支払うのにかかる手数料はわたしのほうに付けておいて下さい。その上で、一冊売れるたびにわたしに6シリング払い込んでいただきます。出版社が受け取る手数料は、一部6シリングにつき7ペンス半にしかなりませんが、広告費を捻出するために、それを1シリングに上げてはいかがかと提案いたします。というのもこれはわたしの新たな実験なのですが、広告の多、少はあなたの一存でお願いしたいからです。こういう取り決めをしても商売上のマイナスにはならないと思います。広告が売れ行きを増やすかぎり、広告をすれば出版社の利益が多くなるのははっきりしていますから。しかも一部につき1シリングもかかることはないでしょう。たとえば、もし広告にもう20ポンド使うとすれば、さらに1000部余計に売れることになるでしょう。その価値はおわかりいただけると思います。このようにしてさらに30ポンドの利益をうることも出来ると思います。

6シリングから1シリング引くと5シリング残り、それがわたしに払っていただく分になります。ですから「印刷が何部で紙代、印刷代、製本代がいくら。何部売れて合計何ポンド、一部5シリングとして合計額はいくら」というふうに、損益勘定はとても簡単になるのではないでしょうか。

3カ月以内に書店(小売店)が決済してくれるなら、あなたは値引きなさるでしょう。現金で払ってくれるならもっと値引きをなさるでしょう。お得意先の顧客にも同じようになさるでしょう。すべてこれらはあなたのご都合でなさればよいことで、わたしには関係のないことです。1月にわたしが受け取る前年の6月締めの一年分の受け取り分を、6月から6月にまたがる変わりに、その中間期の1月に支払って下されば、わたしに帰すべきいかなる割引もなくなります。

この試案についてのお考えをお聞かせ下さい。

敬具

C. L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1883年、6月5日

拝啓　マクミラン様

『スナーク』を送っていただき有り難うございました。ご指摘のように、残っているものは特装版だけになりましたから、どうぞ出版リストからこの本を省いて下さい。新しい本[『詩?理性?』]の表紙にいれる肖像画の二つの見本をみていますが、「ベルマン」が一番いいと思います。これと同じ大きさの円に入るようなベルマンの新しい頭部を作って下さいませんか?それから(間に合うようでしたら)2冊の『アリス』を、明るいグリーンのクロスで小口は一

つはピンクとクリーム色のマーブルがけで、もう一つは（F．レイトン卿の提案ですが）表紙と色調はおなじで、すこし明るい色合いのグリーンで、いつものように外側に文字をいれて製本していただきたいのです。先日送っていただいた二冊は表紙にタイトルさえも入っていなかったため、贈り物には使えませんでした。こういう手抜かりはもう直しようがないでしょうね。『ユークリッド』I,IIの広告に、わたしがお願いしたことをつけ加えて下さいましたか？

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1883年6月6日

拝啓　マクミラン様

出版方法を変える私案におおむねご承諾いただけたようですので、わたしが熟慮をかさねたさらに詳しい事柄について書いたものをお送りします。

はじめに、忘れないうちに念を押しておきたいのですが、いま手がけていただいている『アリス』の増刷には、安い紙を使用しないということをはっきり了解していただきたいと思います。現在残っている本の紙質が（予告なしに）落とされていることにただちに抗議したいと思います。新しい本については問題は別です。お願いしてあった安い紙に印刷した『アリス』のシートを、わたしはまだ受け取っていません。

新しい本のタイトルについては、これは前の本からまじめな詩を省いてかわりに『スナーク』を加える内容ですから、『ファンタズマゴリアとその他の詩集』では誤解をまねきやすいのでやめたのです。

本の値段ですが、あなたのおっしゃる小売価格を8シリング6ペンスにするというご提案を受け入れることは、取引上の割引が慣行になっている以上、わたしが提案した目的からははずれます。あたらしい路線を考えたわたしの理由は、小売価格と取引価格の差があまりに大きく、書店の利益が多すぎることです。それを縮小すれば、わたしは彼等の反感を買うでしょう。それでもこのシステムは変えられなければならない、というのがわたしの意見です。変えるというのはつねに対立を生むものです。

わたしの計画はつぎのようなものです。

このさき、以下のことを念頭において広告をしていただきたいのです（正確なことばづかいはあなたにおまかせします）。

「1883年6月30日以降は、ルイス・キャロル氏の二冊の本、『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』は、いままでよりも安い紙を使用するため、値段はつぎのようになります。一般読者むけはそれぞれ、5シリング6ペンスと6シリング。市場取引の場合は、値引は20パーセントくらいとし、価格はそれぞれ4シリング4ペンスと4シリング9ペンス。その他の値引（25パーセント引きや24パーセント引き）は認めないものとする。上記の値段は一年以内に支払われる場合である。3カ月以内に支払われる場合は、5パーセントの値引が認められ、現金取引は10パーセントが認められるものとする。現在印刷中の詩の本は、『ファンタズマゴリアとその他の詩集』から選んだ詩に『スナーク狩り』を加えたもので、70葉あまりの挿し絵が入

る予定であるが、価格は7シリングとし、市場取引の場合は5シリング6ペンスとする。値引きに関しては、他の二冊の本の取り決めとおなじにする。」

この三種の本に関するあなたの利益は、5ペンスと2分の1、5ペンスと10分の7、6ペンスと5分の3になり、わたしが提案したアップの案では、それぞれ8ペンス、9ペンス、1シリングになります。その結果あなたはわたしに、一部売れるごとにそれぞれ3シリング8ペンス、4シリング、4シリング6ペンス振り込んでいただくことになります。そして広告はあなたが請け負って下さるのです。

もしあなたがお望みでしたら、3カ月以内の支払いについて同じような割引をあなたがなさることを喜んで認めるつもりです。それをあなたが市場価格や取引価格に適用なさるのもかまいません。これらの結果、四半期のおわりで決まる現在の収支決算が、つぎの四半期の中間期には決まることになります。「即金」払いについては考える必要もないでしょう。どうしても無理というはずはないのですから。

もう一つあります。本を増刷する場合（現在『アリス』がそうですが)、会計年度の終わりが近いときには、6月30日に（仮に）1000部以下しか「手元に」置かずにすむよう発行部数を減らすべきです。あるいはもしそれが不都合でしたら、その年度内には印刷を請け負うべきではなく、次期に見送られるべきです。そうすればおなじ本の経費と領収高は、大部分がおなじ期の収支決算に含まれることになるでしょうから。

まえに送っていただいた表紙のタイトルが抜けていた二冊の『アリス』をどうすればいいか、まだお返事をいただいていませんが、あれはもし文字を入れることが出来れば人に差し上げられるのですが。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1883年6月7日

拝啓　マクミラン様

（ある簡単な理由から、先日あなたからいただいたものであれ、クレイク氏からであれ、ご子息からであれ、あなたの甥からであれ、いただいた手紙のお返事は「すべてあなた宛」にいたします。そうしても彼等のだれにも失礼になることはないと思います)。

二種類の紙に印刷された『アリス』の見本用シートが届きました。お願いしてあった紙とくらべて、いかほど安いのかどうぞ教えて下さい。わたしが見たところでは、違いはほんのわずかのように思えますので、安い紙を使ったことを一般読者に広告する必要はないと思います。混乱を招くだけですし、新しい本は以前の本にくらべて劣っているという印象を植え付けることにもなりかねません。

紙の違いで1000部につき、どのくらい（経費が）違うのかどうぞお知らせ下さい。それによって安い紙を使うかどうか判断したいと思います。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1883年6月11日

拝啓　マクミラン様

わたし達が細かな事柄を了解できるまで、広告はすべてお控え下さるようお願いします。提案書をみて思うのですが、お願いしていた『アリス』は安く売る必要はなく、『鏡の国』とおなじ値段で売ればよいと考えはじめました。

また、わたしが提案した「割引」価格のかわりに、「6カ月以内の支払いには5パーセント引き、即金では10パーセント引きにする」としたほうが公平だと考えています。一年を不均等に3カ月と9カ月に分けるよりも筋が通るのではないかと思います。

『ユークリッド』I,II, の記事の載った「スペクテイター」紙についてのおはがきありがとうございました。すでに持っていますのでお送りいただかなくて結構です。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1883年6月15日

拝啓　マクミラン様

「合意書」ありがとうございました。変更が必要なところは見あたりませんので、新しい取り決めによる広告をただちになさってよいと思います。しばらくのあいだ（一年かすくなくとも半年か）様子をみてみましょう。そのあとでわれわれ双方に変更が必要かどうか検討すればいいと思います。書店の利益についてわたしがある程度まで決断したことは、おだやかなものですから反感をこうむることもないでしょう。もし反対してきたら、わたしは「毒を食らわば血まで！」と言って、かれらの儲けをもっと減らす方法をとるでしょう。

別な二冊の『アリス』はいつごろになりますか？

『詩？理性？』というタイトルで広告なさって下さい。

敬具
C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1883年6月24日

拝啓　マクミラン様

「合意書」の写し二通送っていただきありがとうございました。わたしの見解をとてもよく具体化してあってたいへん満足すべきものです。二通にサインしたうえで一通を返送いたします。

第一条は、だれが印刷の細かい事務を管理するのか曖昧なままですので、部数を何部にするか決めること、紙の質をかえること、製本すること等々の命令をするのはあなたの権力に含まれるようにみえますが、これらはもちろん作者の管理のもとにあり、作者のなんらかの同意なしに運ばれることはない、と理解できるようにすべきです。事実、部数についてはこれまであなたの慎重なご判断にもとづいたシステムによってきましたのでそれにならいますが、部数の注文をのぞけばいかなる変更もわたしに相談なくなされるべきではありません。あのシステムは是非そのまま変更なしで進めて下さい。このまえわたしが申し上げた年度の区切りにまたが

る場合増刷のコストを分けるというわたしの提案（たとえば、6月30日に手元に1500部以上残っていることを想定した）は撤回いたします。それほど複雑にする必要はないと思っています。6月30日にたくさんかかえていないよう注意をはらう、という申し合せには満足です。その日が間近かにせまっているいま、わたしにとっては少ないほうが好都合ですが、あなたには売れ残った本がたくさんあるほうが、あなたには好都合なのも事実です。しかし、決算の一年前に印刷したことで生じる付随的な利益は当然「出版社の利益」の項目に入る、とは考えたくないのです。

広告は7月1日以前に出されるべきものと考えます。新しい本は知らされてしかるべきで、本屋はそれによって正しい情報を得るでしょうから。いまわたしが心配していることは、7月に入ってもずっと広告が出ないと、グリーンウッド氏に、数日後に広告が出ることをすでに知らせたので、彼が「セントジェームズ・ガゼット」誌に話すかもしれないことです。きっとすぐ話すにちがいありません。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1883年8月1日

拝啓　マクミラン様

1878年に売り出した「索引」[キャロルがまとめたテニスンの『イン・メモリアム』のための索引] をあなたが絶版にしたことを忘れていました。それがまだわたしの本のリストに入っていましたから、おそらくあなたもお忘れだったのだとと思います。どうぞリストから省いておいてください。

「イースターのあいさつ」についてあなたのご指示をあおぎたいのです。友人が再三あれだけを別個に売ればいいと言ってくれます。わたしは何年かまえにそのことをあなたにお知らせしました。そして（反対されなかったので）そうしていただいていると思っていました。ある本屋を推薦していただき、名前をあげてその人物からあずかっていることをはなしていただき、あなたから（仮に）1000部送っていただく、かれはなにも支払わなくてよいが、売れた分の代金をあなたに支払う、ということは出来ませんか？わたしはその利益はいりませんから、彼に1000部の印刷費をまかなう費用を出していただけばよいのです。わたしがこんなに安いパンフレットをなぜ売るのか、という疑問をあなたはいだかれるでしょう。どのくらい安いものまで請け負っていただけますか？

7月29日のお手紙でお話した「ローンテニス・トーナメント」についてのパンフレットのことでおうかがいします。出していただけるとしたら（お返事がまだですのでわかりませんが）それは8ページほどで、6シリング以上にはならないと思いますが、あなたがやってくださるには安すぎますか？もしそうでしたら、ほかの出版社と本屋を探さなければなりません。どこかありますでしょうか？広告を早めに出したいので、はやめにお返事いただけるとたいへんありがたいのです。それは「ルイス・キャロル」の本ではなく、（数学書はいつもそうであるように）実名で書きました。

敬具

C．L．ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1883年8月6日

拝啓　マクミラン様

お手数ですが、同封のものを投函していただけませんか？

「ローンテニス」の本のことですが、まもなく何部かお送りするつもりですが、小売価格を6ペンスに、取引価格を5ペンスにして、わたしに4ペンス払っていただく、というのはいかがでしょうか？仮に売り切れたとしても利益は微々たるものですから、この場合にかぎり広告料はわたしが出します。直ちに幅ひろい広告を――すくなくとも、「セント・ジェームズ」、「フィールド」、「ランド・アンド・ウォルター」、「スポーティング・アンド・ドラマティック・ニューズ」などの日刊紙に、ほかにも思いつかれたものがあればよろしくお願いします。タイトルは「ローンテニス・トーナメント、賞のわりふり、現行の方法の間違いの証明つき」、M.A.スチューデント、オックスフォードのクライスト・チャーチ元数学講師、チャールズ・ラトウィッジ・ドジスン作、として裏表紙に「おなじ著者による本：『ユークリッド』、1部および2部、第2版、1883年刊、クラウン8vo. 2シリング、マクミラン社」と書いて、序文の抜粋を加えます。2シリングでよいでしょうか？「ローンテニス」を200部お送りいたしますが、それ以上必要でしたら「オックスフォード、セントオールデイツ　69番地、バクスター商会」にお申し付けください。

「イースターのあいさつ」についてのお考えありがとうございました。しかし友人を満足させることは出来ないでしょう。彼は一部ずつをほしがっていますから。あなたから本屋を説得できないようでしたら、わたしがセント・ジェームズ・ストリートのペル・メル社のハリスン氏のところへ行こうと思います。妹の知人ですので。それを1000部刷るのにいくらかかるかどうぞ教えてください。

7月27日の手紙でお願いした小口にプリムローズ色を使った『アリス』の本はまだ届きません。

敬具
C．L．ドジスン

［付記］

1．文中の（　）はドジスンによるもので、［　］は訳者註である。

2．113ページの原詩は

"First they pull up the fish：
It can't swim away: for a fish that is funny.
Next 'tis bought, and I wish
That a penny were always the adequate money." [p.151]

現在の『鏡の国のアリス』第9章「クイーン・アリス」の魚の詩は、魚の謎になっており答は牡蛎である。

"First, the fish must be caught."

That is easy: a baby, I think, could have caught it.

"Next, the fish must be bought."

That is easy: a penny, I think, would have bought it.

[World's Classics, p.236]

「まず魚をつかまえなければならぬ」
おやすいご用　赤ん坊だってできる
「つぎには魚を買ってこなきゃならぬ」
おやすいご用　1ペニーで買える

[高杉訳、p. 221]

3. この翻訳（5）は、北星論集（文学部）第30号（1993)、第32号（1995)、第33号（1996)、第35号（1998）につづくもので、Lewis Carroll, *Lewis Carroll and the House of Macmillan,* ed. by Morton N. Cohen and Anita Gandolfo, Cambridge University Press (1987) を底本にドジスンの手紙の部分を訳出したものである。翻訳にあたり1994年、C. L. ドジスンの遺産管理者のPhilip Dodgson Jaques 氏の許可を得た。©The Trustees of the Charles L. Dodgson Estate.

[参考文献]

Lewis Carroll, *The Diaries of Lewis Carroll,* Volume I,II, edited and supplumented by Roger Lancelyn Green, Greenwood Press, 1954.

Lewis Carroll, *The Complete Works of Lewis Carroll,* Nonesuch Press, 1973.

Lewis Carroll, *The Letters of Lewis Carroll,* Volume I,II, edited by Morton N. Cohen with the assistance of Roger L. Green, 1979.

S.H.Williams and Falconer Madan, Revised by Denis Crutch, *The Lewis Carroll Handbook,* Dawson & Archon Book, 1979.

Lewis Carroll, *Alice's Adventures in Wonderland and Through the Looking-Glass,* Edited with an Introduction by Roger L. Green, World's Classics, Oxford University Press, 1990.
高杉一郎訳、『鏡の国のアリス』、講談社文庫、1988.

Lewis Carroll, *Lewis Carroll's Diaries,* Volume 1, 2, 3, 4, 5, edited by Edward Wakeling, Luton, The Lewis Carroll Society, 1993-1999.